



西浮通信

令和6年2月29日
NO. 400
東京都北区立西浮間小学校
校長 小島 みつる

一瞬一瞬の積み重ねを大切に

校長 小島 みつる



「瞬間」「一瞬」とは「まばたきするほどの短い時間」のことです。私たちがまばたきするのにかかる時間は0.1秒だそうです。この一瞬の連続が人生です。過ぎた時間はどんなことをしても二度と手に入れることはできません。「時間を大切に」という教えが世界中にあるのは、それだけ実践するのが難しいからでしょう。『いつかしよう』と思っている『いつか』は決してやってこない」とはスコットランドのことわざです。

1年間は31,536,000秒です。この31,536,000秒の積み重ねが、4月からの子供たちの成長です。西浮間小の子供たちはみな明るく素直なので、自己肯定感が高いことが特徴です。でも、1年間の成長の中では、まだ気付いていなかった自分自身を知る、特に短所に気付くことも多くあったかもしれません。また、学校生活の積み重ねの中では、友達の短所が気になってしまい、友達に対していやな気持ちを持ち、時には心ない言葉をかけてトラブルになってしまったこともあるかもしれません。もしかすると、これは子供だけに限ったことではなく、家庭での時間の積み重ねの中で大人が子どもに、または大人同士で相手の短所ばかり気になってしまったことがあるかもしれません。そこで、こんな言葉を紹介します。

人の短所が気になったら、自分の器が小さいと思うべきです。

他人の短所が見えなくなったら相当の人物、長所ばかりが見えてきたら大人物です。

石井久（立花証券創設者）

この言葉に出会って、私自身、（まだまだ器が小さいなあ）と反省しきりです。さらに自分の短所も大いに気になるところです。しかし、考えてみると短所というのは、その人の持ち味でもありますし、そもそも取り去ることなんかできないのかもしれませんが、自分の一番いいところを伸ばしていくと、短所もその人丸ごとの中で、「いい味」に見えてきたりします。人と共に過ごす時間の積み重ねの中で、短所を克服したり、その短所を受け入れ持ち味にしたりすれば、自分に対しても他の人に対しても優しい気持ちになれるのではないのでしょうか。

1年31,536,000秒。嫌な気持ちを積み重ねていくのでは無く、優しい気持ちやよい思いを積み重ねていきたいですね。相手の短所が気になってしまったら、ゆったりと相手を見つめ、いかにその短所をよい持ち味に変えていき（または、自分自身が相手の短所を「よい持ち味だな」と考える）、共に一瞬一瞬を共有していく仲間として成長していくことが大切なのではないのでしょうか。

何もしなくても明日はきます。しかし、一瞬一瞬を力いっぱい生きる人にか、次の良い一瞬はやってこないのです。子供たちにはこれからも「一瞬、一瞬」を大切にしていってほしいですし、私自身も大切にしていきたいと思えます。



令和5年度も残すところあとわずかとなりました。保護者の皆様、地域の方々から本校にご理解ご支援いただきましたことに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。